

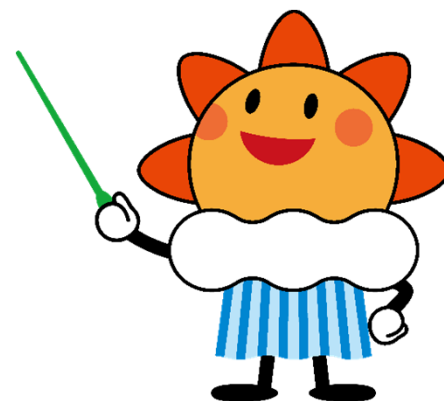
向こう3か月の 天候の見通し

3か月予報（7～9月）



ぼるけん

福岡管区気象台 気象防災部予報課
（令和8年6月23日14時発表）



はれるん

7～9月の予報のポイントと留意点

予報のポイント

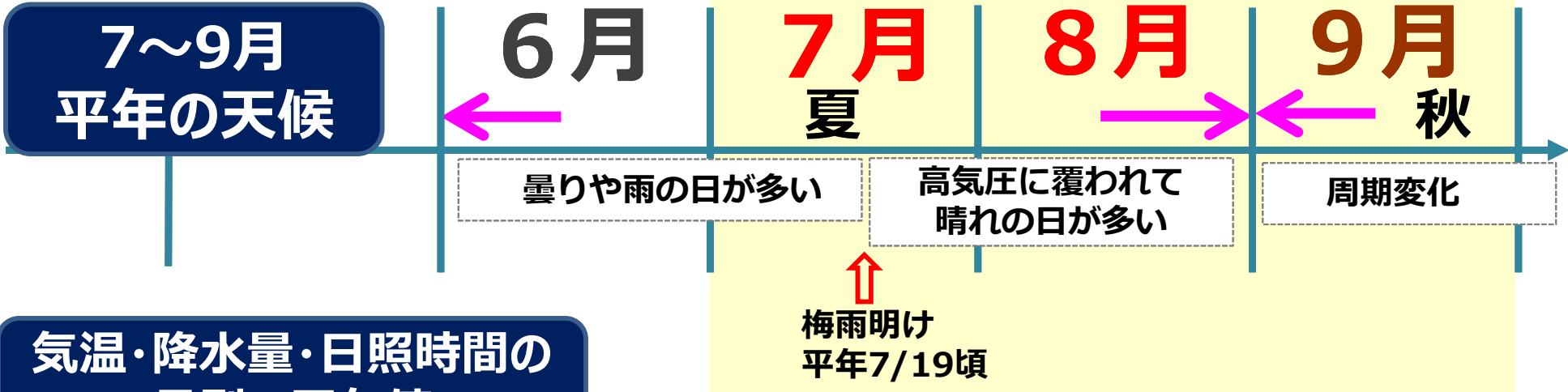
- 向こう3か月の気温は、期間の前半を中心に暖かい空気に覆われやすいため、**高い**見込み。
- 向こう3か月の降水量は、**ほぼ平年並**の見込み。

留意していただきたいこと

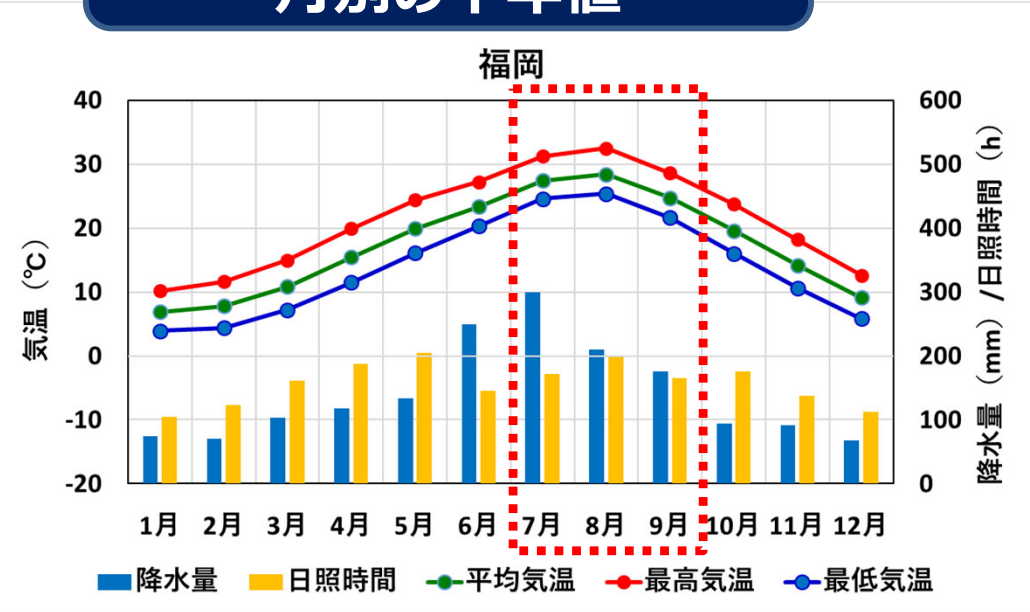
- 7月と8月は**高温**の予報。
- **暑さ対策**（熱中症対策、農作物・家畜の管理等）をお願いします。
- **降水量はほぼ平年並**の予報。
- **大雨が発生しやすく、また台風の発生・接近の多い時期**であり、**近年は大雨の発生頻度が増加しています。最新の気象情報等を活用**いただき、**大雨・台風への備え**をお願いします。



7～9月の九州北部地方の平年の天候経過



気温・降水量・日照時間の 月別の平年値



7～9月のポイント

- ・ 気温は高く、降水量も多い
- ・ 台風の発生数が一番多い (平年の接近数は約3個)

表 台風の発生及び上陸数 (平年値)

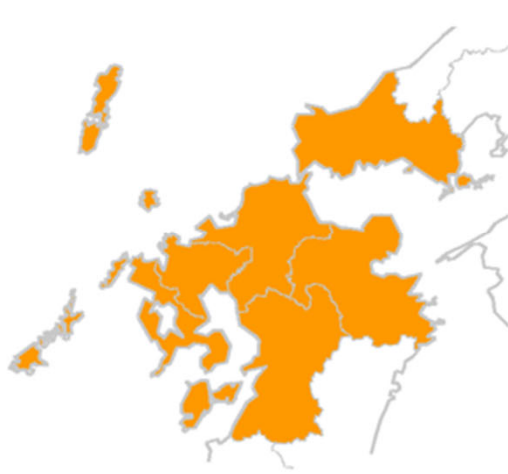
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
日本上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0
九州北部地方 接近数				0.0	0.1	0.3	0.8	1.1	1.1	0.4			3.8

九州北部地方の天候の特徴
https://www.data.jma.go.jp/cpd/j_climate/kyuhoku/main.html

台風の統計資料
<https://www.data.jma.go.jp/yoho/typhoon/statistics/index.html>

天候の見通し（7～9月）

向こう3か月（7～9月）の平均気温・降水量

九州北部地方 (山口県を含む)	 平均気温（3か月） 7 ～ 9 月	 降水量（3か月） 7 ～ 9 月
	低10 並 40 高 50 高い 見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み
 数値は予想される 出現確率です	 高い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 - 平年並 低い確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上	 多い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 - 平年並 少ない確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上

天候の見通し（月別）

	7 月	8 月	9 月
天候	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温 	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	低 10 並 30 高 60 高い 見込み	低 30 並 40 高 30 ほぼ平年並 の見込み
			
降水量 	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 40 ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み
			

気温

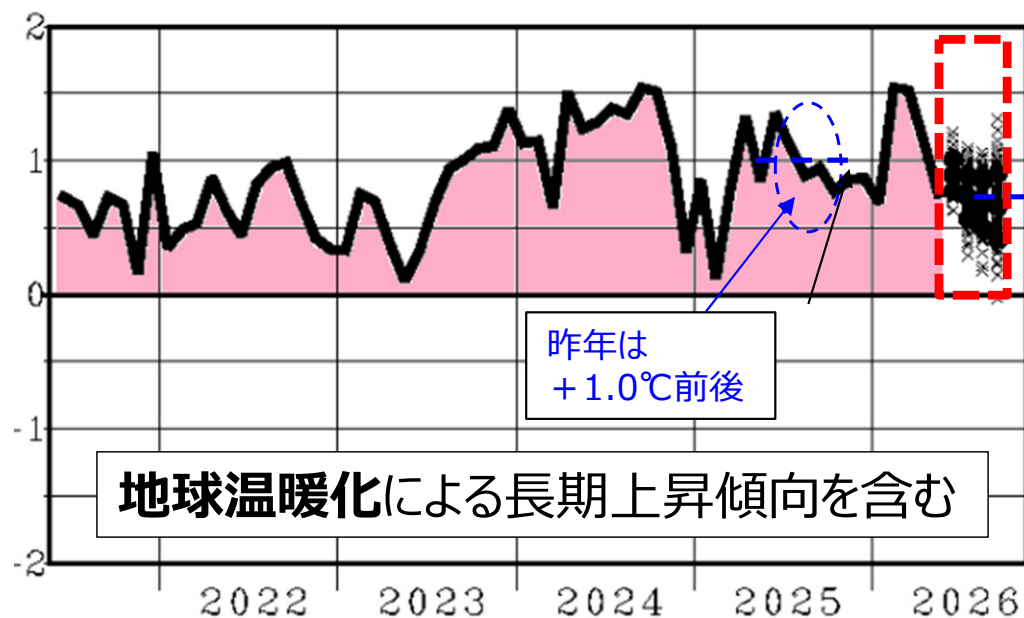
高い確率
70%以上
60%
50%
40% (20:40:40)
40% (30:30:40)
平年並
平年並
低い確率
40% (40:30:30)
40% (40:40:20)
50%
60%
70%以上

降水量

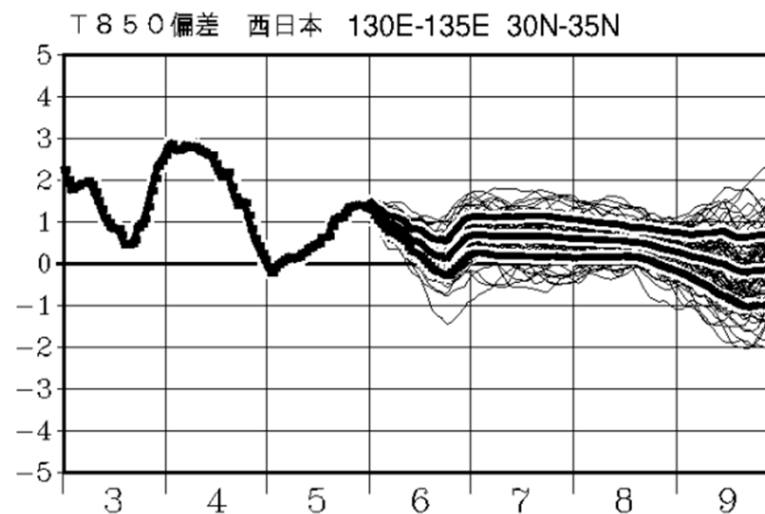
多い確率
70%以上
60%
50%
40% (20:40:40)
40% (30:30:40)
平年並
平年並
少ない確率
40% (40:30:30)
40% (40:40:20)
50%
60%
70%以上

大気全体の温度の予測

北半球中緯度の大気の温度は**高い**状態が続く。



西日本の上空約1,500m付近の
気温平年差



北半球中緯度の大気の温度の解析値と予測
対流圏（高さ約1,500～10,000m）の温度の平年差

昨年ほどの高温は
予想されていないが、
平年よりは高い。
高温に注意。

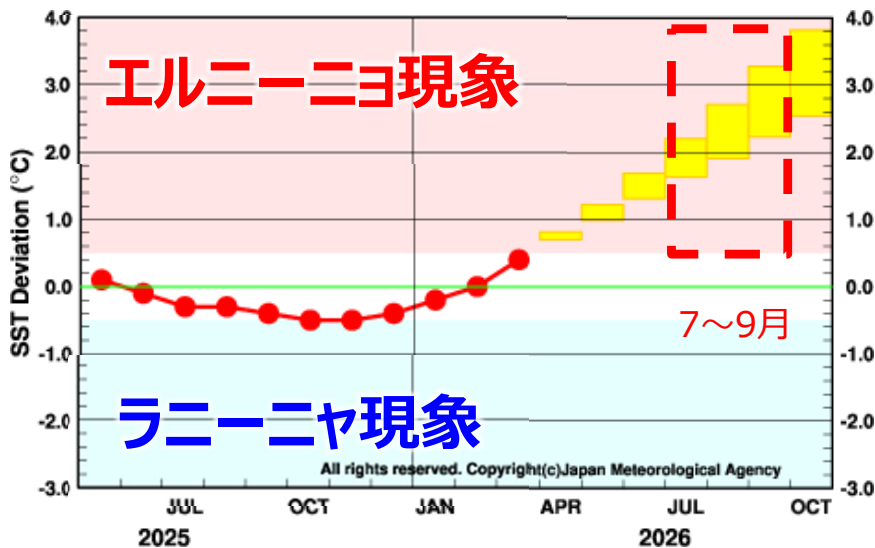


熱帯域の海面水温の予測

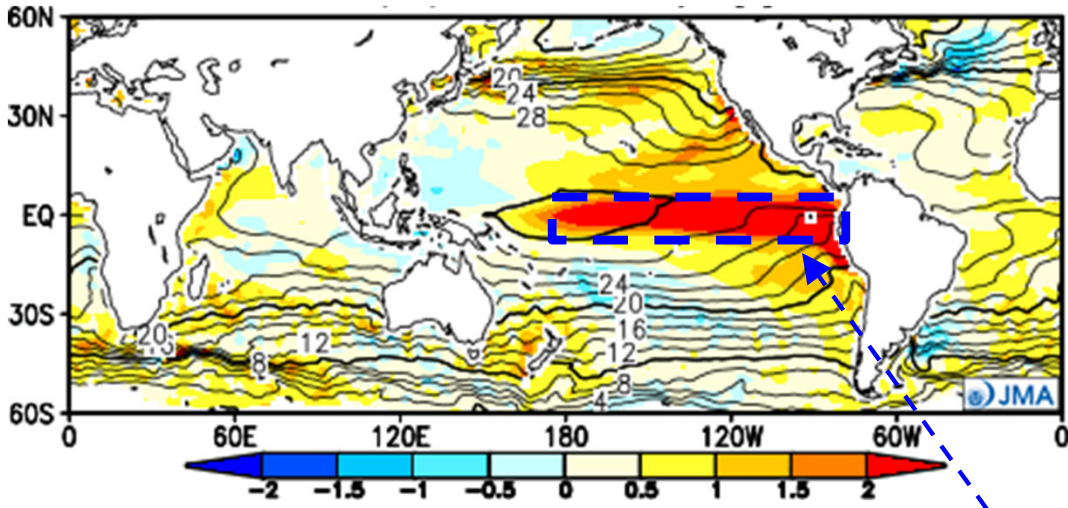
2026年春から**エルニーニョ現象**が発生しているとみられる。
今後、秋にかけて**エルニーニョ現象**が続く見込み（100%）。

エルニーニョ監視速報（6月10日発表）

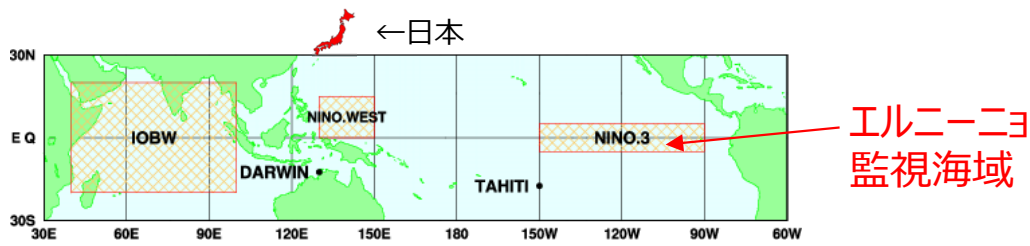
エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値の差



海面水温の予測図（7~9月）



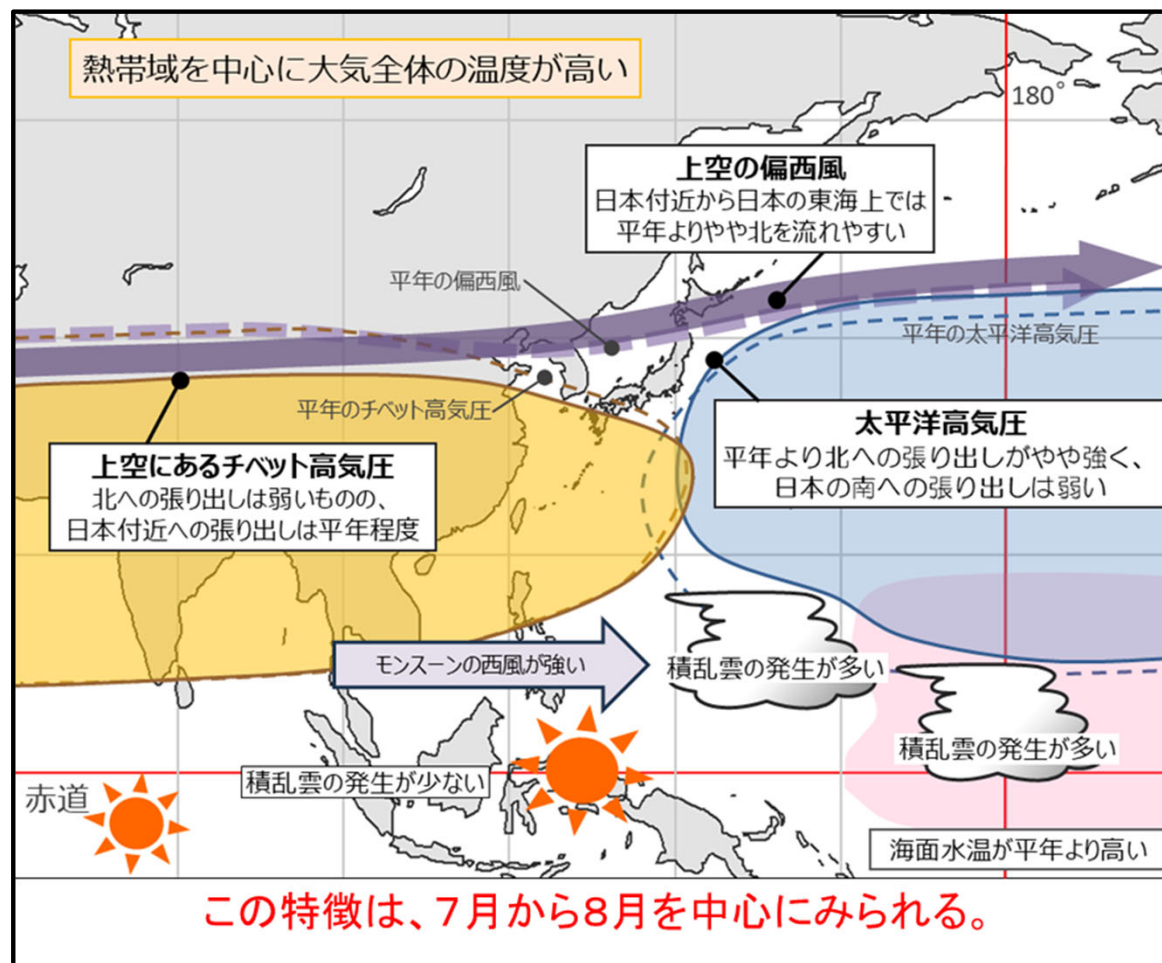
海面水温が高い海域が、太平洋赤道域西部
→ 太平洋赤道域中・東部へ



エルニーニョ監視速報 URL :
https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

年	月	平均期間	各月の確率
2026年	4月	2026年2月～2026年6月	100
	5月	2026年3月～2026年7月	100
	6月	2026年4月～2026年8月	100
	7月	2026年5月～2026年9月	100
	8月	2026年6月～2026年10月	100
	9月	2026年7月～2026年11月	100
	10月	2026年8月～2026年12月	100

7～9月の予想される海洋と大気の特徴



【熱帯域の海面水温と対流活動】

- **エルニーニョ現象**が続く見込みで、海面水温は太平洋赤道域の中部～東部で高く、積乱雲の発生が多い。
- 期間の前半はモンスーンの西風が強く、積乱雲の発生は、フィリピンの東から太平洋中部でも多く、インド洋からインドネシア付近で少ない。

気温のポイント

7～8月は高温予想
(9月はほぼ平年並)

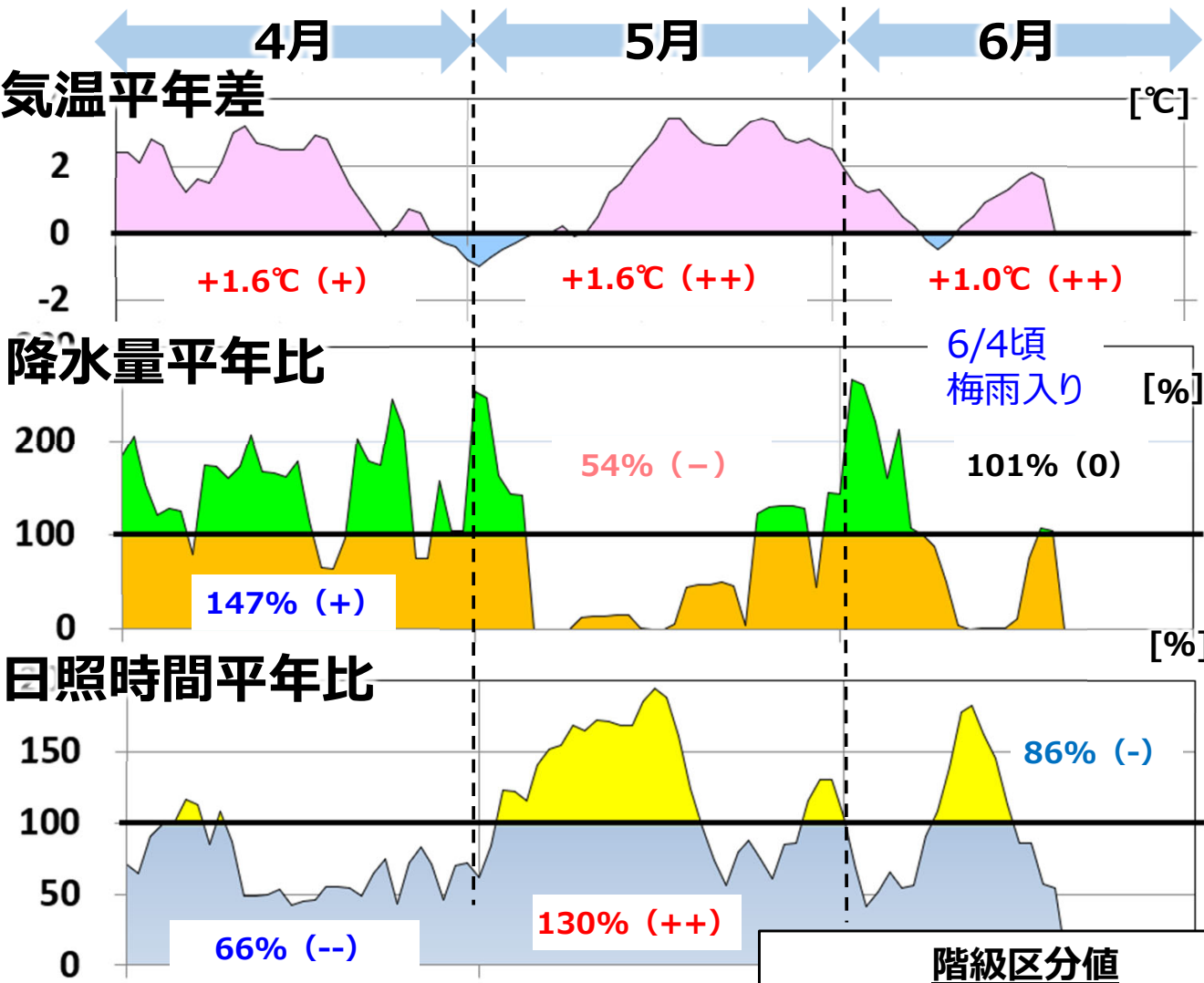
- 大気全体の温度が**高い**
- 期間の前半は**太平洋高気圧の北への張り出しがやや強く**、上空の**偏西風**が、日本付近から日本の東海上では**平年よりやや北を流れ、暖かい空気に覆われやすい**。
- 期間の後半は偏西風がやや南を流れやすくなるため、9月の気温はほぼ平年並の予想。

降水量のポイント

ほぼ平年並の予想

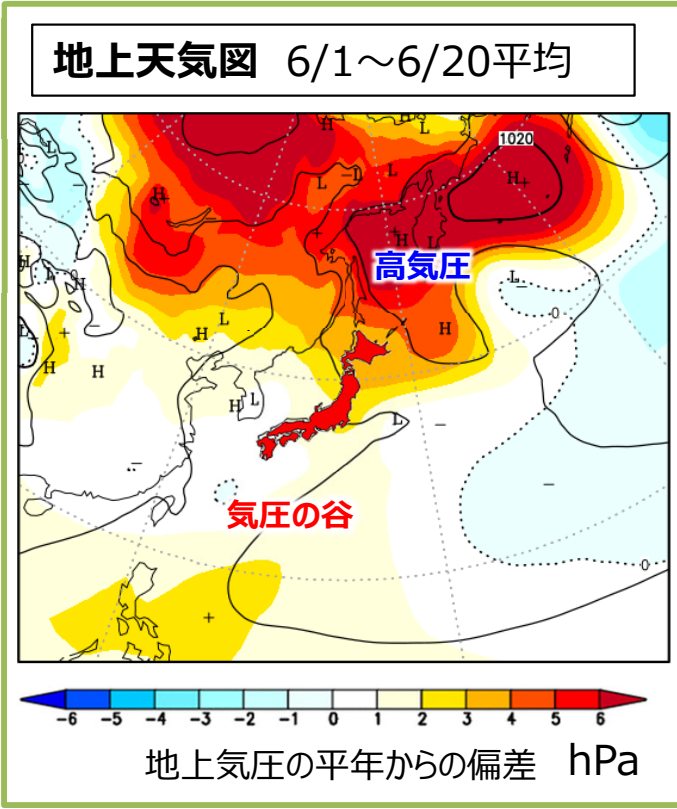
- 8月を中心に、太平洋高気圧の縁を回って流れ込む湿った空気の影響をやや受けやすい時期があるため、平年より多い確率は40%。

九州北部地方の天候経過（4～6月）



【6月（20日まで）の天候】

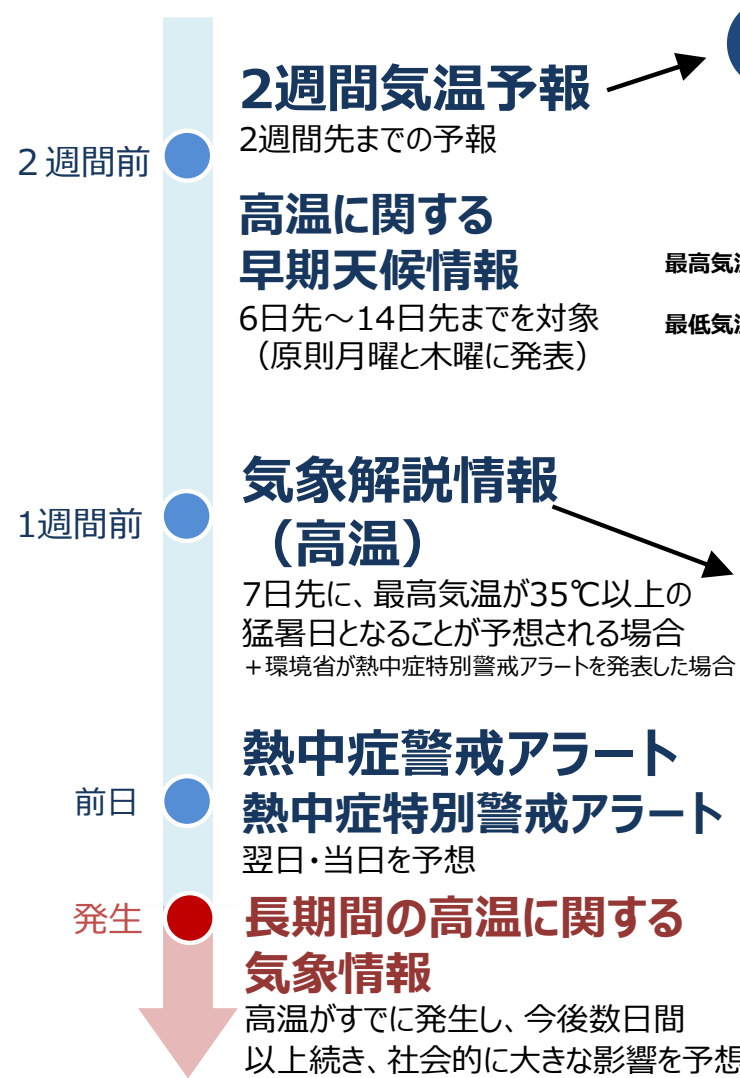
- 暖かい空気に覆われやすかったため、気温は平年を上回った。
- 九州北部地方は6月4日頃に梅雨入りしたとみられ、降水量は平年並であった。
- 梅雨前線が本州南岸から本州の南に位置することが多く、日照時間は平年を下回った。



数値は月平年差（比）・階級区分値
月の値は20日までの暫定値
グラフは5日移動平均値でプロット

階級区分値	
(++)	: かなり高い/かなり多い
(+)	: 高い/多い
(0)	: 平年並
(-)	: 低い/少ない
(--)	: かなり低い/かなり少ない

暑さへの備え～高温に関する気象情報の流れ～



2週間気温予報の例

1週目の予報 (日別)								2週目の予報 (5日間平均)				
当日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目 (6～10 日目)	9日目 (7～11 日目)	10日目 (8～12 日目)	11日目 (9～13 日目)	12日目 (10～ 14日)
最高気温	26	26	27	29	32	32	33	34	35	35	35	35
最低気温	23	23	23	24	25	25	25	26	26	26	26	26

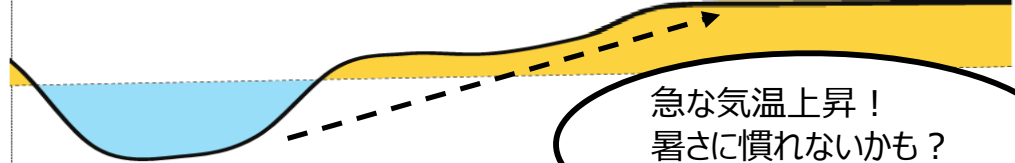
かなり高い

高い

平年並

低い

かなり低い



急な気温上昇！
暑さに慣れないかも？
熱中症に注意しよう！



気象解説情報 (高温) の例

九州北部地方（山口県を含む）気象解説情報（高温） 第◇号
令和○年8月5日15時00分 福岡管区気象台発表

(見出し)

九州北部地方（山口県を含む）では、8月8日から12日頃にかけて、最高気温が35度以上となるところがあるでしょう。

(本文)

九州北部地方（山口県を含む）では、8月8日から12日頃にかけて高気圧に覆われて晴れるため、**最高気温が35度以上の猛暑日**となる所がある見込みです。
熱中症などの健康管理、農作物や家畜の管理などに注意してください。



農作物・家畜の高温
障害にも注意

大雨への備え～大雨に関する気象情報の流れ～

- 大雨の発生の**5日前**から、**早期注意情報**で、**警報級の大雨の可能性**を発表しています。
 - 早期注意情報や時系列情報等は、心構えを高め、事前の体制確保の検討に
- **キキクル**や**気象防災速報**は、**避難の判断**や**後押し**に活用してください。



早期注意情報（大雨）の例

	当日	1日後				2日後		3日後	4日後	5日後
早期注意情報	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24	3日後	4日後	5日後
大雨	-	-	-	-	-	-	-	[中]	[高]	[中]
土砂災害	-	-	-	-	-	-	-			

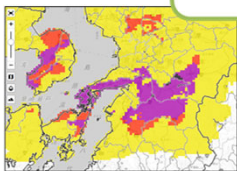
大雨・土砂災害・河川氾濫の警戒レベル
注意報・警報・危険警報・特別警報

キキクル

気象防災速報



3～5日後は大雨の可能性。
今のうちに確認・準備しておこう。



キキクルで
避難判断



7～9月の見通しのまとめ

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、期間の前半を中心に暖かい空気に覆われやすいため、**高い**見込み。
- 向こう3か月の降水量は、**ほぼ平年並**の見込み。

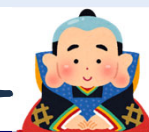
留意していただきたいこと

- 7月と8月は**高温**の予報。
- **暑さ対策**（熱中症対策、農作物・家畜の管理等）をお願いします。

- 降水量は**ほぼ平年並**の予報。
- 大雨が発生しやすく、また**台風**の発生・接近の多い時期であり、近年は大雨の発生頻度が増加しています。最新の**気象情報等**を活用いただき、**大雨・台風への備え**をお願いします。



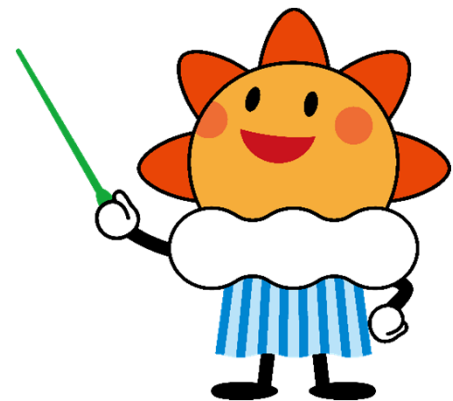
次回の3か月予報の発表は、**7月21日（火）14時** です。



参考資料



ぼるけん



はれるん

最近の7～9月の天候

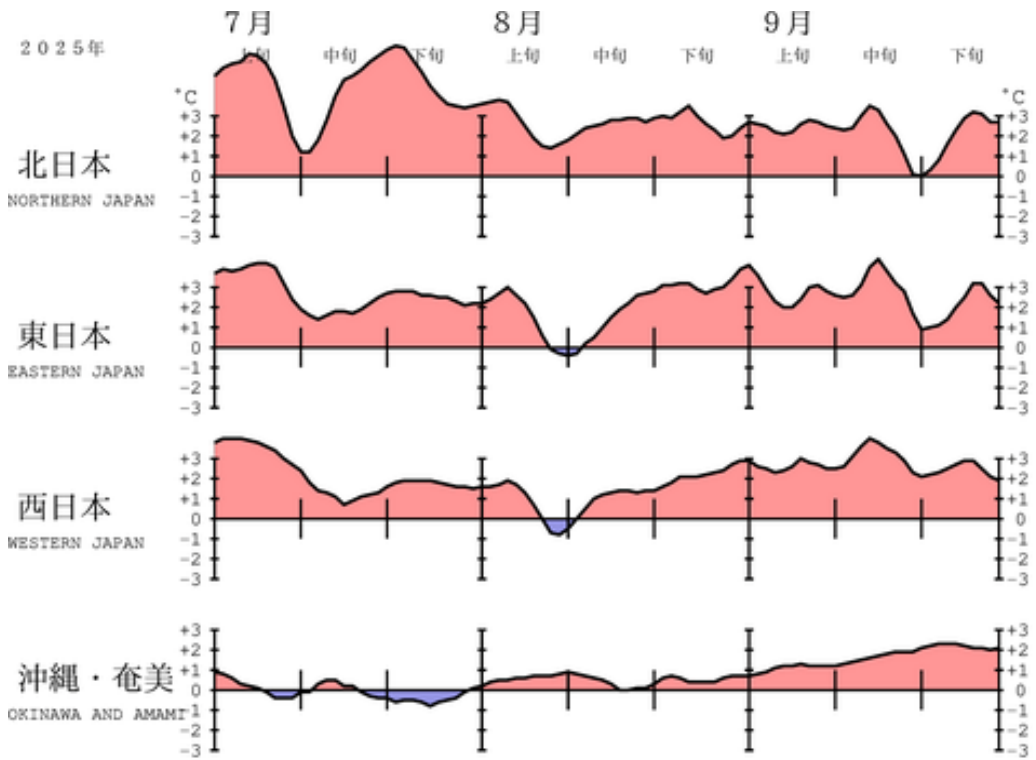
過去10年間の九州北部地方の地域平均の平均気温（平年差℃）と階級

年	7～9月	7月	8月	9月
2025	2.1	2.3	1.2	3.0
2024	2.5	1.7	1.9	3.7
2023	1.4	1.0	1.1	2.1
2022	1.0	1.1	1.0	1.0
2021	0.3	0.8	-0.7	0.9
2020	-0.2	-1.6	1.3	-0.3
2019	0.0	-0.9	-0.3	1.3
2018	0.9	1.4	1.5	0.0
2017	0.5	1.5	0.8	-0.7
2016	0.8	0.7	0.9	0.7

濃い赤：かなり高い、薄い赤：高い 白：平年並
濃い青：かなり低い、薄い青：低い
年の色は、赤：夏にエルニーニョ現象が発生している 青：夏にラニーニャ現象が発生している

- ・ 最近10年の7～9月の平均気温は、全国的に高い年が多かった。特に最近4年は、記録的な高温となった年が多かった。
- ・ 昨年（2025年）の7～9月は、日本付近で偏西風が平年より北に偏って流れ、全国的に気温がかなり高かった。1946年以降の統計開始以降、北・東・西日本では2位の高温となった。また、多くの地域で6月に梅雨明けとなったため、7月の降水量は北日本と東・西日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側では7月として1位の少雨となった。

2025年 地域平均気温平年差



TIME SERIES OF 5-DAY RUNNING MEAN TEMPERATURE ANOMALY FOR SUBDIVISIONS

地域平均気温平年差の5日移動平均時系列

更新日：2025年10月10日

1か月予報（6/18発表）

予報のポイント

毎週木曜日14時30分発表

- ✓ 向こう1か月の**気温**は**ほぼ平年並**ですが。期間の後半は、暖かい空気に覆われやすいため、**平年並が高い**でしょう。
- ✓ 向こう1か月の**天候**は、**平年と同様に曇りや雨の日が多い**でしょう。**降水量、日照時間**ともに**平年並**の見込みです。

向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

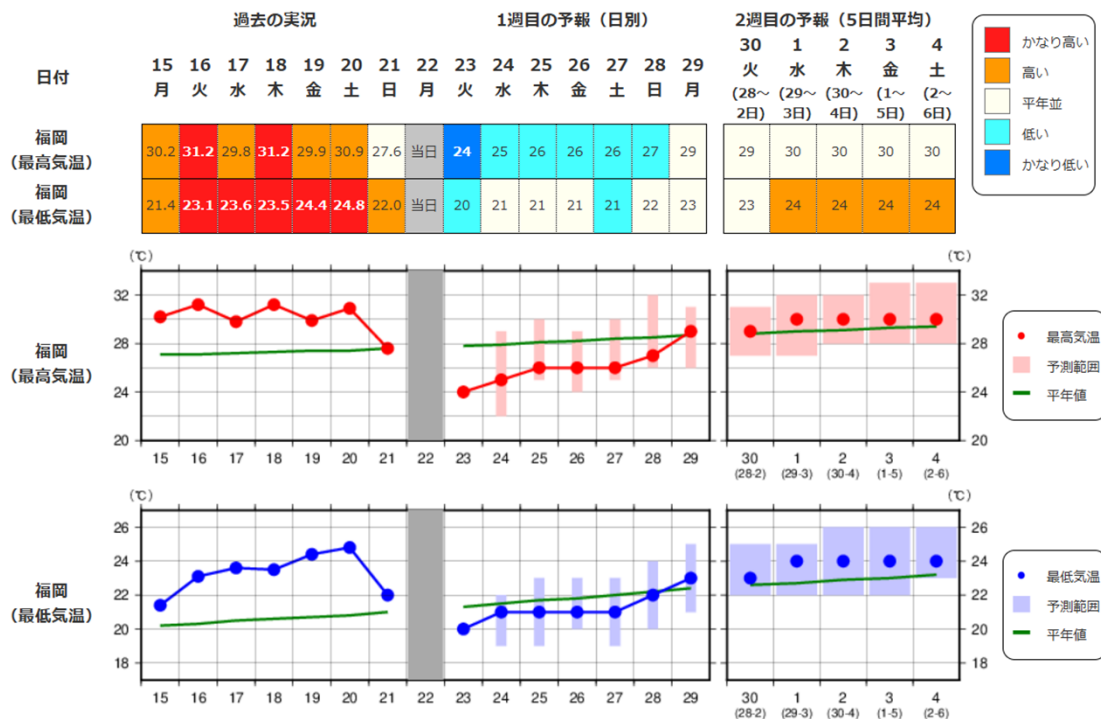
	平均気温（向こう1か月）	降水量（向こう1か月）	日照時間（向こう1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低30 並30 高40% ほぼ平年並 の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並 の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並 の見込み
数値は予想される出現確率（%）です	平均気温（1か月） 低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%） 以上 以下 平年並も40	降水量（1か月） 少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 以下 平年並も40	日照時間（1か月） 少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 以下 平年並も40

2週間気温予報・早期天候情報

2週間気温予報（福岡）

毎日14時30分発表
5時/11時/17時更新

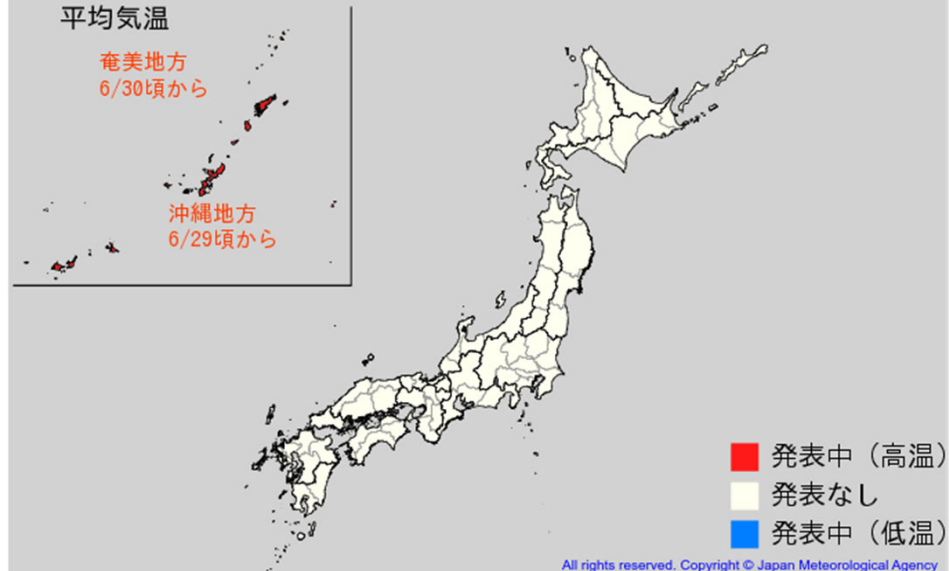
（6/22 14:30発表）



早期天候情報

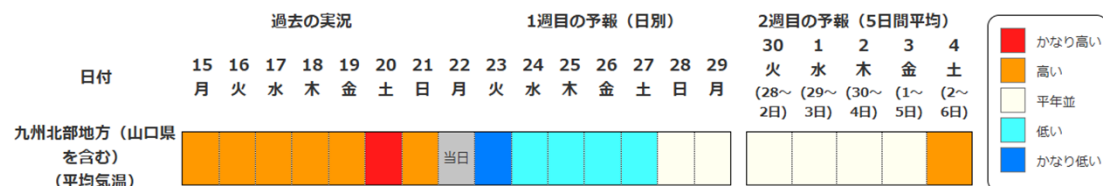
6/22発表

早期天候情報 令和8年6月22日14時30分 発表
情報の対象期間：6月28日～7月6日
平均気温



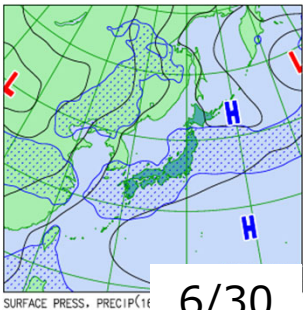
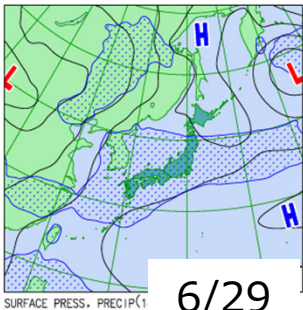
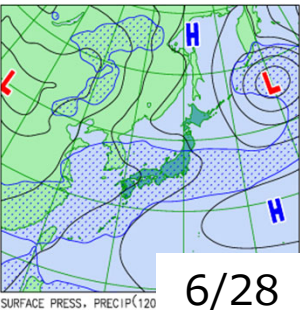
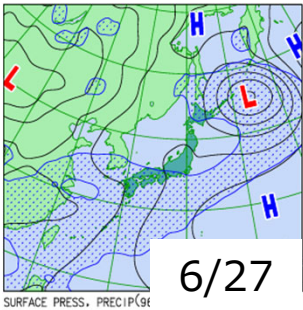
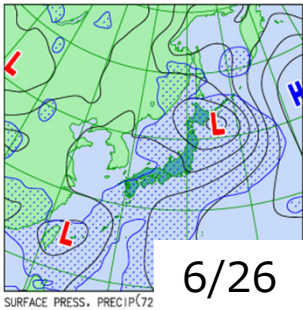
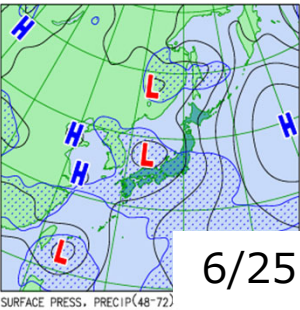
令和8年6月22日の
九州北部地方（山口県を含む）の早期天候情報の発表はありません。

2週間気温予報（九州北部地方）



週間天気予報（6/23 11時発表）

予想天気図



L：低気圧 **H**：高気圧
陰影部：24時間で5mm以上の予想降水域

週間天気予報（福岡県）

福岡県の天気予報（7日先まで）								
2026年06月23日11時 福岡管区气象台 発表								
日付	今日 23日(火)	明日 24日(水)	明後日 25日(木)	26日(金)	27日(土)	28日(日)	29日(月)	30日(火)
福岡県	雨 	雨 	曇時々雨 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇時々晴 	曇
降水確率(%)	-/-/80/70	90/90/90/70	80	60	50	50	30	40
信頼度	-	-	-	C	C	C	C	C
福岡 気温 (°C)	最高 21	23	27 (26~30)	29 (28~30)	28 (26~31)	27 (26~31)	29 (26~33)	29 (27~32)
	最低 -	20	23 (21~24)	23 (21~24)	22 (20~23)	23 (21~24)	23 (21~24)	23 (21~25)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値								
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温		
福岡	平年並 49 - 112mm			22.0°C		28.4°C		

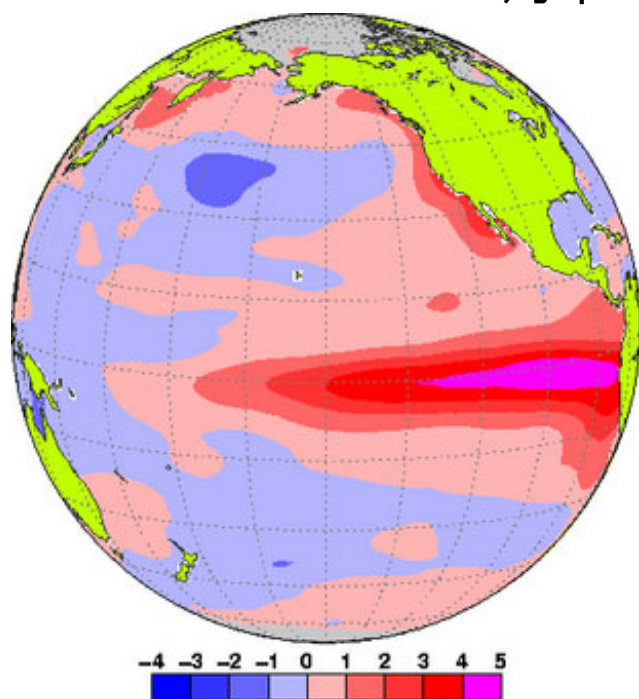
向こう1週間の雨の見通し

前線、台風や台風からの湿った空気の影響で曇りや雨となる見込みです。
福岡の降水量は **多い** でしょう（平年並の範囲： 49 ～ 112 mm）。

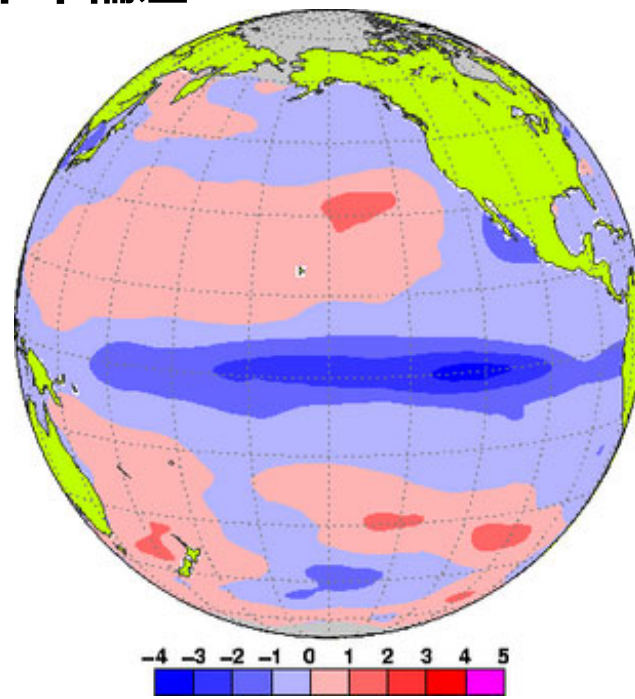
エルニーニョ現象・ラニーニャ現象①

エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象です。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象はラニーニャ現象と呼ばれ、それぞれ数年おきに発生します。エルニーニョ現象やラニーニャ現象は、日本を含め世界中の異常な天候の要因となり得ると考えられています。

月平均海面水温平年偏差



エルニーニョ現象発生時
(1997年11月)

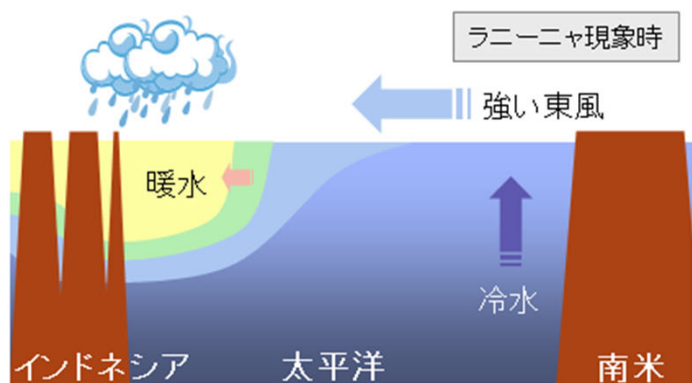
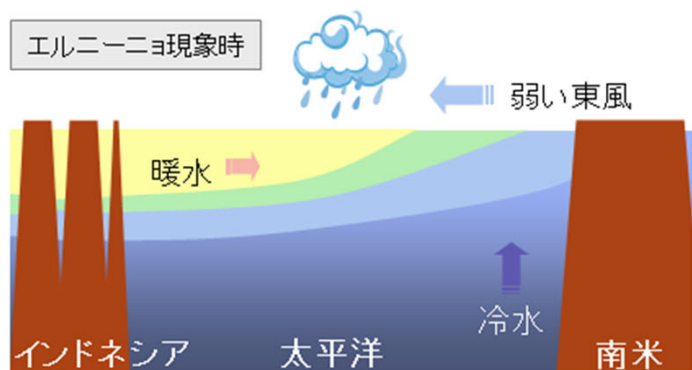
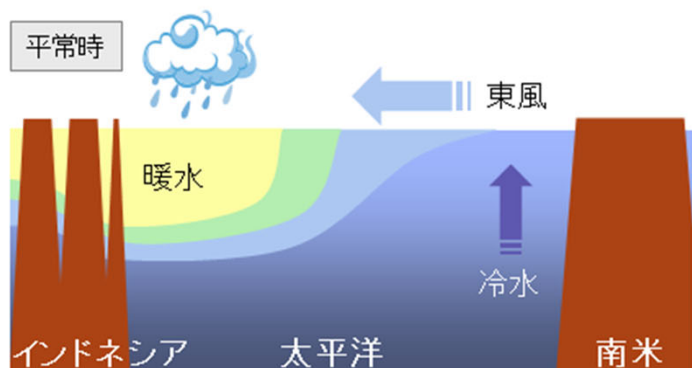


ラニーニャ現象発生時
(1988年12月)

気象庁ホームページ（エルニーニョ/ラニーニャ現象とは）

https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/el_nino/learning/faq/whatiselnino.html

エルニーニョ現象・ラニーニャ現象②



平常時の状態

太平洋の熱帯域では、貿易風と呼ばれる東風が常に吹いているため、海面付近の暖かい海水が太平洋の西側に吹き寄せられています。西部のインドネシア近海では海面下数百メートルまでの表層に暖かい海水が蓄積し、東部の南米沖では、この東風と地球の自転の効果によって深いところから冷たい海水が海面近くに湧き上がっています。このため、海面水温は太平洋赤道域の西部で高く、東部で低くなっています。海面水温の高い太平洋西部では、海面からの蒸発が盛んで、大気中に大量の水蒸気が供給され、上空で積乱雲が盛んに発生します。

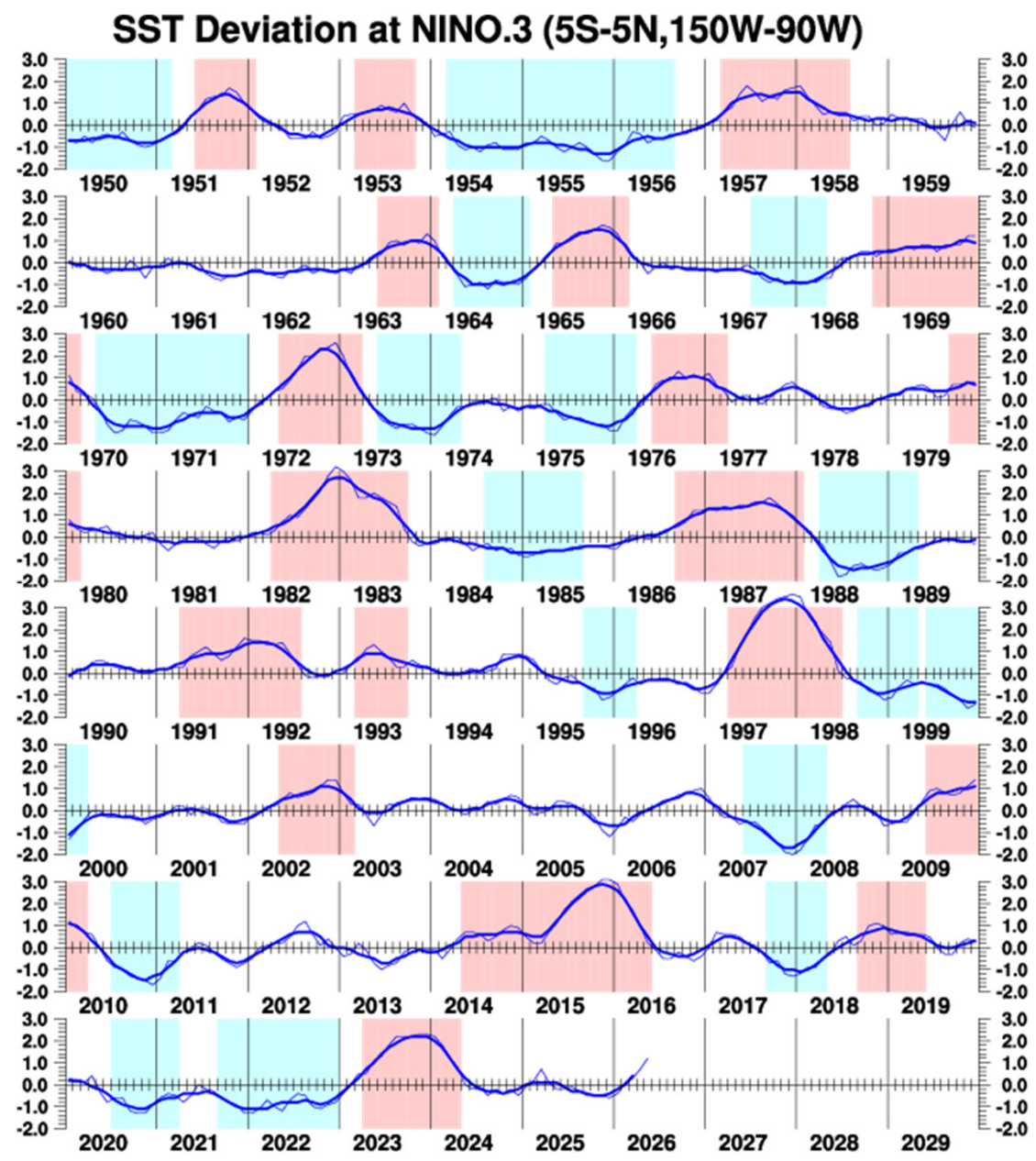
エルニーニョ現象時の状態

エルニーニョ現象が発生している時には、東風が平常時よりも弱くなり、西部に溜まっていた暖かい海水が東方へ広がるとともに、東部では冷たい水の湧き上がりが弱まっています。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも高くなっています。エルニーニョ現象発生時は、積乱雲が盛んに発生する海域が平常時より東へ移ります。

ラニーニャ現象時の状態

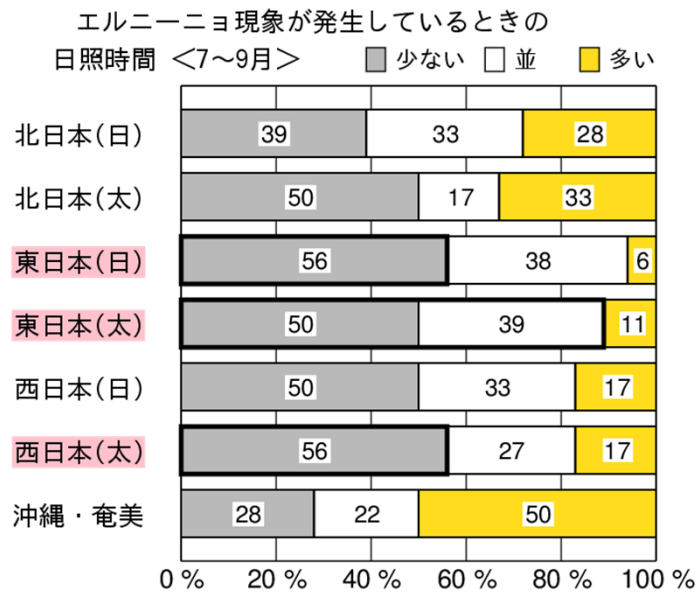
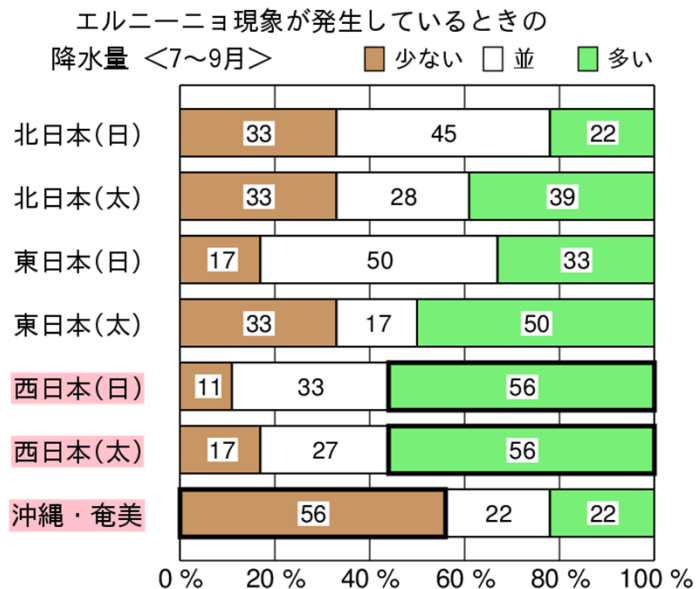
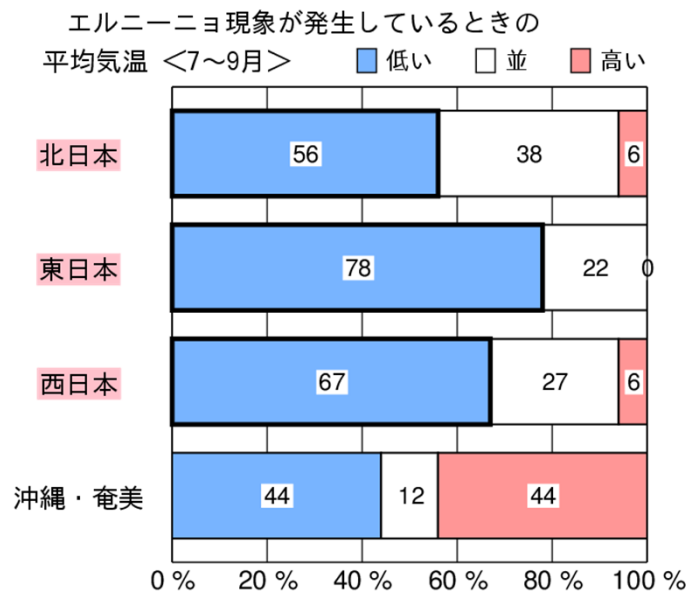
ラニーニャ現象が発生している時には、東風が平常時よりも強くなり、西部に暖かい海水がより厚く蓄積する一方、東部では冷たい水の湧き上がりは平常時より強くなります。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも低くなっています。ラニーニャ現象発生時は、インドネシア近海の海上では積乱雲がいつも盛んに発生します。

エルニーニョ現象・ラニーニャ現象の発生時期



エルニーニョ現象			ラニーニャ現象		
発生期間	季節数	差の最大値 (月平均)	発生期間	季節数	差の最小値 (月平均)
			1949年秋～1950/51年冬	6	-1.0
1951年夏～1951/52年冬	3	+1.7			
1953年春～1953年秋	3	+1.0	1954年春～1956年夏	10	-1.6
1957年春～1958年夏	6	+1.8			
1963年夏～1963/64年冬	3	+1.3	1964年春～1964/65年冬	4	-1.2
1965年春～1965/66年冬	4	+1.7	1967年夏～1968年春	4	-1.0
1968年秋～1969/70年冬	6	+1.2	1970年春～1971/72年冬	8	-1.5
1972年春～1973年春	5	+2.6	1973年夏～1974年春	4	-1.6
			1975年春～1976年春	5	-1.4
1976年夏～1977年春	4	+1.3			
1979年秋～1979/80年冬	2	+0.8			
1982年春～1983年秋	7	+3.2	1984年夏～1985年夏	5	-0.9
1986年秋～1987/88年冬	6	+1.8	1988年春～1989年春	5	-1.8
1991年春～1992年夏	6	+1.6			
1993年春～1993年秋	3	+1.3	1995年秋～1996年春	3	-1.2
1997年春～1998年夏	6	+3.6	1998年秋～1999年春	3	-1.2
			1999年夏～2000年春	4	-1.6
2002年春～2002/03年冬	4	+1.4	2007年夏～2008年春	4	-2.0
2009年夏～2010年春	4	+1.4	2010年夏～2011年春	4	-1.7
2014年春～2016年春	9	+3.1	2017年秋～2018年春	3	-1.3
2018年秋～2019年春	3	+1.1	2020年夏～2021年春	4	-1.3
			2021年秋～2022/23年冬	6	-1.3
2023年春～2024年春	5	+2.3			

7～9月のエルニーニョ現象発生時の日本の天候の特徴

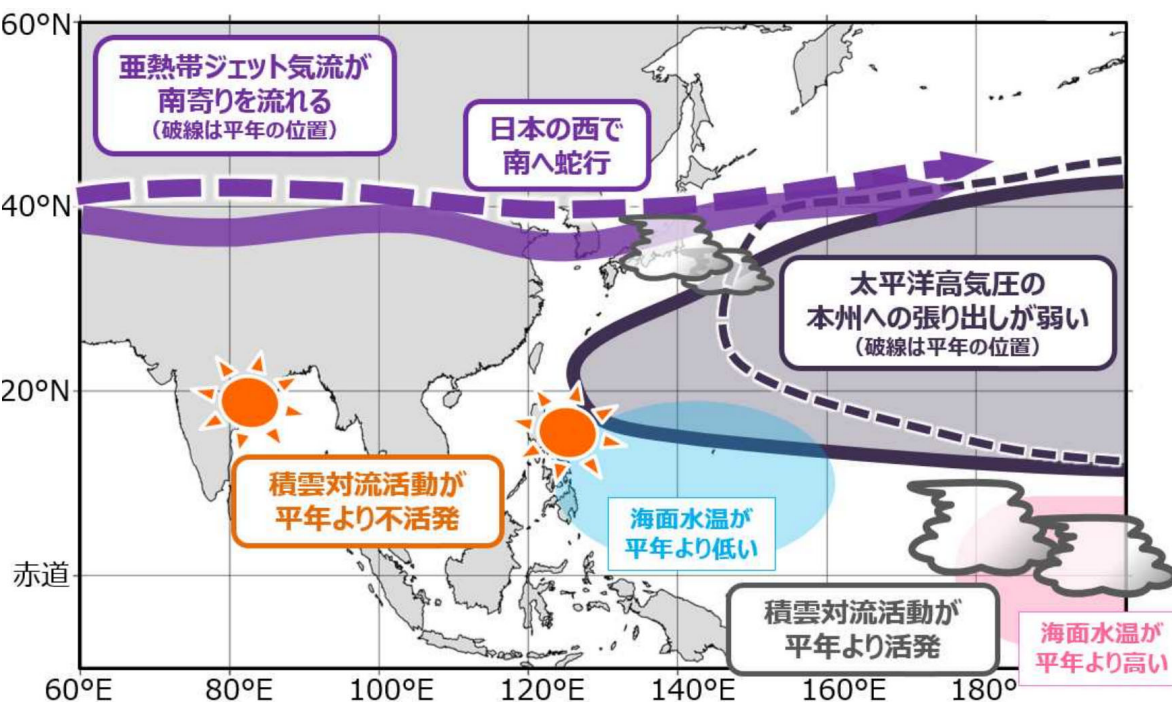


3か月（7～9月）の統計的に有意な傾向
（西日本・沖縄・奄美）

- ・気温： 西日本で低い。
- ・降水量： 西日本で多い。
 沖縄・奄美で少ない
- ・日照時間： 西日本太平洋側で少ない。

エルニーニョ現象時の夏の海洋と大気の特徴

エルニーニョ現象に伴う夏の海洋と大気の特徴



過去の統計（1948～2021年）では、
気温：北・東・西日本で**低い**
降水量：西日本日本海側
（近畿日本海側・山陰や九州北部地方）で**多い**

太平洋赤道域の海面水温

西部：**低い** 中・東部：**高い**



太平洋赤道域の対流活動

中・東部：**活発**

インド付近、インドネシア付近
フィリピン東方海上：**不活発**



赤道域対流活動の東西の偏りにより

- ✓ 上空の偏西風はユーラシア大陸～日本付近を南寄りに流れる
- ✓ 上空の偏西風は、日本の西で南に蛇行
- ✓ 太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱い

季節予報技術資料 第2巻（令和6年度）（気象庁）より

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kisetsu_gijutsu/02/chapter1.pdf

大雨の発生頻度の変化



気象庁HP
大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化

大雨の年間発生頻度は増加しており、

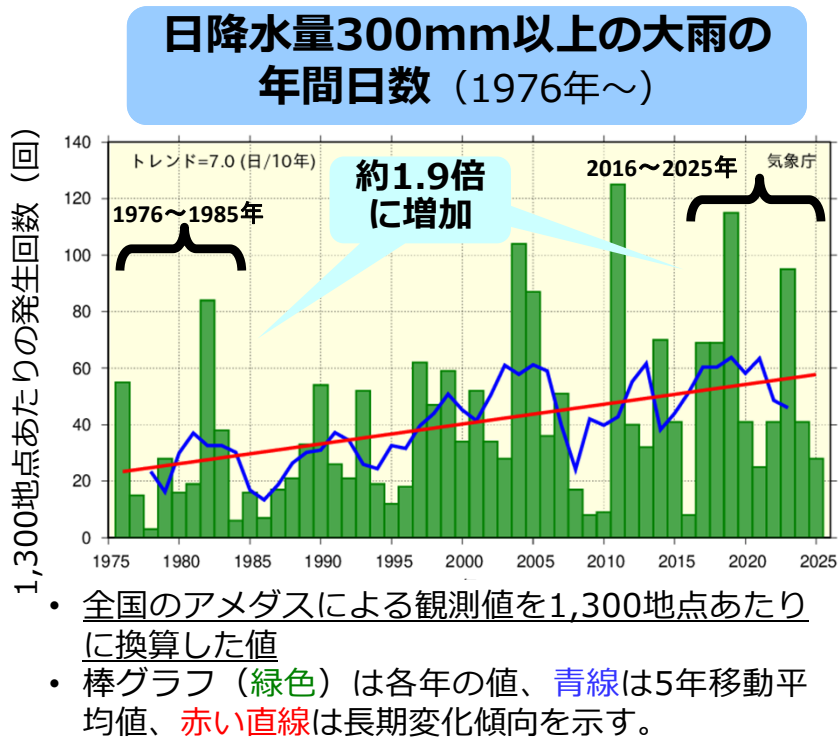
- より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大い
- 1980年頃と比較して、おおむね2倍程度(※)に頻度が増加している

(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨)

これらの変化には、地球温暖化が影響している可能性がある
⇒大雨に対する備えの必要性を認識していただきたい

変化の倍率（2016-2025年平均 / 1976-1985年平均）	
1時間降水量50mm以上	約1.5倍（約226回→約340回）
1時間降水量80mm以上	約1.8倍（約14回→約25回）
1時間降水量100mm以上	約2.0倍（約2.2回→約4.4回）
3時間降水量100mm以上	約1.6倍（約155回→約248回）
3時間降水量150mm以上	約1.8倍（約19回→約33回）
3時間降水量200mm以上	約2.1倍（約2.8回→約5.9回）
日降水量200mm以上	約1.5倍（約160日→約240日）
日降水量300mm以上	約1.9倍（約28日→約53日）
日降水量400mm以上	約2.1倍（約6.4日→約13日）

- ・変化の倍率は、最初の10年間（1976～1985年）と最近10年間（2016～2025年）の比。
- ・回数及び日数はアメダス1,300地点あたりの換算値。



あるいは、以下のような幅を持った表現もできる。ただし、数値は統計手法や期間等で変わりうることに留意。
1980年頃と比較して、約1.8倍～約2.1倍(※)に頻度が増加している
(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨。統計期間は1976～2025年)

季節予報とは？



気象庁HP
季節予報って何？

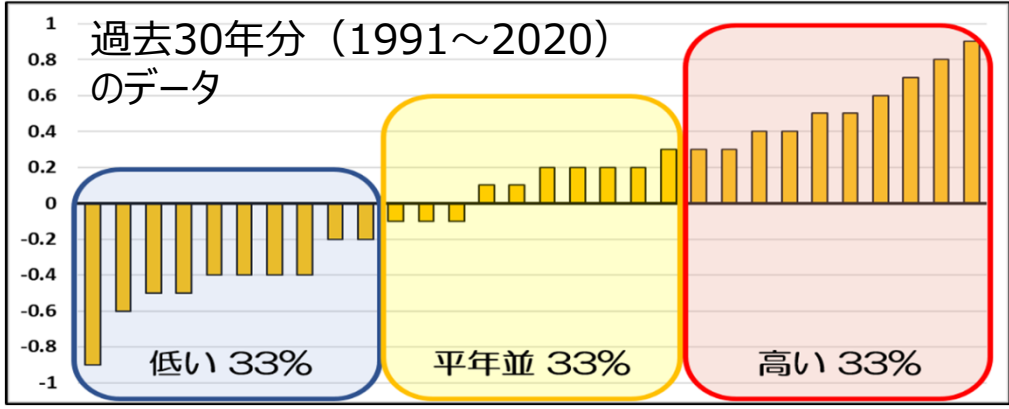
季節予報は、日々の天気ではなく、ある地域の大まかな天候（平年の気候と比べて、どのくらい偏った天候か）を予報します。

地域： 日本全国を11地方に分類（右図）
予報する要素

- 例） 1 か月間、3 か月間の平均気温
- 1 か月間、3 か月間の降水量
- 1 か月間、3 か月間の日照時間 など



予報は3つの階級
低い（少ない）・平年並・高い（多い）の
どの階級に入るかを予報します

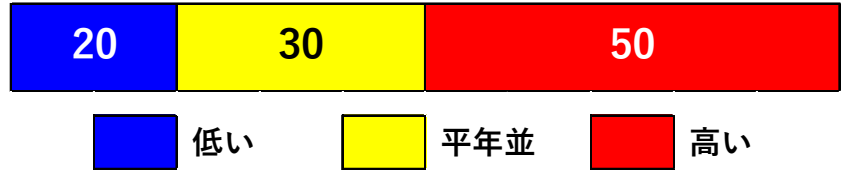


現在が平年値期間の30年と同じ気候だとした場合、「高い」「平年並」「低い」という階級になる可能性は、それぞれ33%。

予報区



予報例 向こう3か月の気温



平年並か低くなる確率も50%

高くなる確率は
50%